

情報漏えい事例

2015/10

報道月	概要	原因
2015/10	北海道情報大学：システムの不具合により、個人情報が入ったメールが誤ってメーリングリストに配信される事故が発生。同大健康情報科学研究センターが展開する「食の臨床試験」の健康カード登録システムにおいて、9月17日17時ごろウェブサイトより登録された会員データ1件が、会員向けメールマガジンのメーリングリストに配信されたもの。会員の氏名、郵便番号、電話番号、生年月日、身長などの個人情報を含むメールが、登録者493人に対して送信された。システムの不具合にくわえ、会員登録時の操作ミスが重なったことにより発生。	失念
2015/10	明星大学：学生の個人情報が保存されたUSBメモリが所在不明。同大学の日野キャンパス構内において氏名や学籍番号のほか、成績関連情報など保存したUSBメモリ。2005年度から2015年度に在籍していた理工学部総合理工学科、および同学部環境システム学科の学生や卒業生など約600人分の個人情報が保存。USBメモリにはセキュリティ対策が講じられていない。	紛失
2015/09	沖縄海邦銀行：糸満支店-顧客情報576件を含む書類が所在不明。同支店において、2010年1月から3月までの「総合振込依頼書」576件を紛失。顧客の氏名や電話番号、銀行名、口座番号、取引金額などが記載。行内で誤って廃棄した可能性が高い。	紛失
2015/08	大阪市立大学：1991年度の聴講生11人の個人情報（氏名や住所、本籍地、生年月日、性別など）が記載された成績原簿を紛失。	紛失
2015/08	昭和大学：5月に発生した車上荒らしによる外付けハードディスクの盗難事件に関し、別の事件で逮捕された容疑者の押収物から盗難物が発見された。ハードディスクには横浜市北部病院の患者情報約4万8000人分の個人情報保存。	盗難
2015/08	筑紫女学園中学校・高校：教諭が車上荒らしに遭い、生徒1517人の個人情報含むUSBメモリなどが盗まれたが、盗難物は3日後に発見された。盗まれたUSBメモリには、中学2年と3年生258人、および2006年度から2015年度に高校に在学していた1259人の氏名や試験結果、評定などが保存されていた。また、中学2年生1クラス分の生徒と保護者の氏名、住所、電話番号、生年月日などを記載した書類も盗まれた。	盗難
2015/08	横浜国立大学：職員が、学生と職員の個人情報が保存されたUSBメモリを自宅に持ち帰り紛失。USBメモリには「2015年度教員免許状更新講習受付担当者一覧」が保存され、職員2人や派遣職員14人、学生6人の氏名が含まれていた。	紛失
2015/07	大阪府立大学：羽曳野キャンパスの事務所内において、入学志願者などの個人情報のべ828件を含むUSBメモリ紛失。USBメモリには、2012年度から2014年度に実施した入学試験の志願者のべ797人の氏名や住所、生年月日、出身校、合否情報のほか、大学院看護学研究科の出願資格認定審査の申請者のべ31人の氏名や出身校、勤務先、研究実績などが保存されていた。	紛失
2015/07	梅花女子大学：ウェブサイトが不正アクセスを受け、公開講座受講者のメールアドレスや電話番号などが流出した。不正アクセスにより公開講座受講者のメールアドレス418件と電話番号5件が流出していたことが判明した。	不正アクセス
2015/07	東京大学：パソコンがマルウェアに感染し、学生や教職員のアカウント情報等個人情報あわせて最大3万6300件が流出した可能性がある。感染したパソコンや同サービスのサーバには、システムのアカウント情報や個人情報が保存。流出した可能性があるのは、2013年度と2014年度の学部入学者、および2012年度と2013年度にシステムを利用した学生の氏名、学生証番号、利用者ID、初期パスワードなど約2万7000件。さらに2012年度以降にシステムを利用した教職員の氏名やID、初期パスワードなど4500件、サーバ管理者の氏名、ID、初期パスワードなど3800件、現在システムを利用している学生と教職員の氏名、学生証番号、IDなど1000件などが含まれる。	マルウェア感染 不正アクセス
2015/07	愛媛大学：不正アクセスを受け、「愛媛大学ミュージアム」の情報配信用に登録されていたメールアドレスが流出した。愛媛大学ミュージアムの情報配信メールサービスに登録されているメールアドレス366件が外部へ流出。	不正アクセス
2015/06	早稲田大学：職員が使用する複数のパソコンにマルウェアが感染し、個人情報が外部へ流出。2014年12月11日に送付された医療費通知を装ったメールの添付ファイルを開封したことがマルウェア感染の原因。マルウェアへ感染した端末経由で、同大の管理サーバの設定ファイルに残されていた管理用パスワードを窃取され、事務で用いている複数のパソコンに感染が拡大。マルウェア感染により、事務用パソコン利用者2310名の氏名、所属、教職員番号をはじめ、学籍番号のほか一部氏名、性別など含む学生に関する91人分、氏名や所属、メールアドレス、教職員番号など、909人分の教職員や派遣社員の情報が漏洩。スケジュール管理に利用していたウェブサイトへの不正侵入により内容が改ざんされた。 サーバOSが最新の状態ではなく、脆弱性が存在したために不正アクセスを受けた。内部に保存されていた外部企業担当者や2006年当時の助手の携帯電話やメールアドレスなど14件が流出した可能性がある。	マルウェア感染 不正アクセス
2015/06	九州大学：キャンパス間で配送を行う学内便を利用して送付した学生183人分の「住所届」が所在不明。箱崎キャンパスの理学部等事務部から伊都キャンパスの学務部宛てに、4月6日に学内便で発送した学生の住所届。5月29日の判明後から捜索を続けている。住所届には、理学部の院生と学部生183人分の氏名や住所、電話番号、学籍番号、生年月日、性別、本籍地、メールアドレスのほか、保護者の氏名や住所、電話番号、勤務先などが記載されていた。	紛失
2015/06	名古屋大学：太陽地球環境研究所の教員が、出張先のスウェーデンで盗難に遭い、個人情報を含むノートパソコンが被害。パソコンには、教員が担当する講義を受講している学生の氏名や成績のほか、研究所の学生や教職員の氏名、メールアドレスなど含む研究所連絡一覧など、のべ271人分の個人情報が保存され、一部データにはパスワードを設定していた。	盗難
2015/05	文部科学省：文書公開請求に対して文書を公開した際、非公開とすべき個人情報が読み取れる状態だったことを明らかにした。開示請求で公開した資料から個人情報が取得できる状態だったもの。2014年7月に実施した「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」への意見募集について、提出された全意見の開示を求める請求があったことから、個人情報については不開示とした上で、2月18日付けで意見を記録したPDFファイルを含むCD-ROMを開示請求者に送付したが、PDFファイルから表計算ソフトなどへデータをコピーすると個人情報が読み取れる状態だった。意見データでは提出者の個人情報を非公開処理したが、担当者が処理手順を十分に理解していなかったという。公開されたデータには、445件の意見が保存されており、ローマ字表記の氏名や、住所、電話番号、メールアドレスなど提出者111人分の個人情報が含まれる。	失念